



気候変動の影響を受ける子どもたち

世界では、3億3,000万人の子どもたちが、河川の洪水リスクにさらされています。



過去10年間で最大規模の洪水

2020年、カンボジアは過去10年間で最も大規模な洪水に見舞われました。被災した地域では学校が休校になったほか、食糧不足や衛生環境の悪化による感染症などのリスクが高まりました。ユニセフは、政府の洪水対応計画を支援し、最も被害の大きかった地域の25万人以上に対して、水、衛生用品、応急処置キット、教科書などを提供しました。

世界では、4億人の子どもたちが、サイクロンのリスクにさらされています。



大型のサイクロンが学校を直撃

大型のサイクロン*によって破壊された学校の図書館。2021年1月にフィジーを襲ったサイクロン「ヤサ」は、85万人の生活に影響を及ぼしました。ユニセフは、テントや生活必需品を届け、学校の修復を支援するなど、子どもたちができるだけ早く日常を取り戻せるようサポートしました。

*ベンガル湾やアラビア海などの北インド洋で発生する熱帯低気圧

世界では、9億2,000万人の子どもたちが、水不足のリスクにさらされています。



ひどい干ばつによる水不足

マダガスカル南部では、雨が降らず、「ティオメナ」と呼ばれる砂嵐と、干ばつが続いています。上の写真はトウモロコシ畑ですが、ほとんど育っていません。水や食糧がなかなか手に入らず、55万人以上の5歳未満児が急性栄養不良に陥ると言われています。ユニセフは他の国連機関やパートナー団体と連携し、学校給食の支援や経済的支援などを行なっています。

気候変動に関する記事は、ウェブサイトでも見られます。

ユニセフ 気候変動

検索



www.unicef.or.jp/news/2021/0163.html

いま、行動しよう!

このまま気候変動や環境汚染が進むと、いまの子どもたちは、将来、より深刻な影響を受けることになります。そして、不公平なことに、気候変動の原因となる温室効果ガスを大量に排出している国のはほとんどが先進国である一方、その被害を最も受けているのは、温室効果ガスをごくわずかしか排出していない途上国の子どもたちなのです。



▲コードジボワールの学校での植樹風景

▲アフガニスタンのソーラー給水システム

私たちみんなが地球にやさしい暮らしをするように行動を改めると同時に、いま、災害のリスクが高い国に暮らす子どもたちが守られるように支援をしないといけません。

*『気候危機は子どもの権利の危機：子どもの気候危機リスク指数の紹介』
(原題:The Climate Crisis Is a Child Rights Crisis: Children's Climate Risk Index)』



学校で野菜を栽培



新しくできた給水設備

中谷 菜美 ユニセフ・マラウイ事務所 子どもの保護担当官
三重県出身。高校生の頃から国際協力に関心を持ち、大学で国際関係学を専攻。卒業後、日本赤十字社で5年間勤務し、2015年のネパール大地震の際には現地派遣も経験。ロータリー財団の支援でイギリスの大学院で子どもの保護・子どもの権利に関する修士号を取得後、ユニセフ・ウガンダ事務所でのインターンを経て、2019年2月より現職。

災害から身を守れるように

ユニセフ・マラウイ事務所では、さまざまな危険から子どもたちを守ることができる地域づくりを目標としています。洪水が起きて下痢や感染症から自分を守ることができるよう、手洗いの大切さを伝えています。また、手洗いのきれいな水に普段からアクセスできることで、子どもたちがここでのケアを受けられ、暴力から守られるよう、地域行政の能力強化を行なつたりしています。



私が働くアフリカのマラウイ共和国は、労働人口の8割が農業に従事する農業国で、紅茶やコーヒーが有名です。治安がよくて心優しい人が多いマラウイですが、世界最貧国のひとつで、たくさんの子どもたちが厳しい状況に置かれています。そして、マラウイは、気候変動によって、毎年のように起きる洪水や干ばつは、とても大きな打撃です。さらに2019年には大型のサイクロンにも見舞われ、たくさんの人が家や仕事を失いました。



サイクロンにより浸水した南部地域

農業で生活している人たちが、災害が多発するほど、被害が大きくなります。私は、この「ホットスポット」と呼んでいます。そこで、マラウイは、気候変動のサイクロンにも見舞われ、たくさんの人が家や仕事を失いました。

気候変動の「ホットスポット」



中谷 菜美 (なかたに・なみ)
ユニセフ
マラウイ事務所
子どもの保護担当官

洪水や干ばつが毎年のように発生、子どもの命と安全を脅かしています。